

パリ協定と自然保護

11月初め、山岳会主催の「天神丸風力発電計画地を歩く～高城山のブナ林を巡る」に参加した。日本晴れの天気恵まれ、ファガスの森を出発。樹木のことや山地図の読み方を教わりながら、山岳会の皆さんの気配りに感謝しつつ、参加者30名全員、高城山頂上に無事到着。みんなで、壮大な山々の景色、そして天神丸へつながる尾根を見た。

オリックスの計画によれば、雲早山(1495m)～高城山(1627m)～天神丸(1631m)の2990haに回転直径117m 高さ175mの風力発電42基を建設すること。1000m以上の標高の高い所に設置するには、かなりコンクリートが、埋め込まれる。これらの資材を運ぶためには、相応の道路の改変が必要で、大掛かりな土木事業となり「環境破壊」である。

今春、「計画地域の希少動植物や景観などへの影響に懸念を示し、重大な影響を回避できないときは事業中止や抜本的な事業の見直しを求めた」知事の意見書が、オリックスに提出され、環境省や経産省もほぼ同様で、水源のことも加筆された意見書が提示された。

しかしこれで終わらない。今はまだ最初の「環境配慮書」の段階で、事業者が撤退しない限り、次の段階へ進む。

パリ協定(2015年)以降、CO2を排出しない再生可能エネルギーへの追い風がある。気候変動に関する国際会議COP24が、12月2日からポーランドで開催された。パリ協定を実施するためのルールづくりが目的で、現在各国が掲げている削減目標を達成しても産業革命前からの気温上昇が、今世紀末には3度に達する。これを2度未満さらに1.5度に抑えないと、今体験している夏の高温や大型台風、干ばつなどの影響が、より厳しく過酷になる。

しかし、上記の問題は、ブナ林の喪失や絶滅が危惧されるツキノワグマなどの生態系の破壊だけでなく土砂災害を引き起こす危険性があり、私企業による利益追求のための風力発電開発より優先されるべきだと思う。翻って、森と海をつなぐ川や干潟での私たちの活動は、賢明な利用を進めて生物多様性の保全を目的としているが、これも地球温暖化防止活動の一環だと思う。

藤永知子

遥かカナダの自然保護

ここ3年ほど、毎年、北米のユーコン川をカヌーで下っています。カナダからアラスカにかけて流れる大河で、日本では、1980年代にカヌーイスト野田知佑さんが、紹介して有名になりました。私は中学時代に吉野川シンポジウム実行委員会の「川の学校」に参加して以来野田さんには懇意にしています。

ユーコン川は、3200kmの大河であるにも関わらず、橋が3本しかかかっていません。ハイウェイが途切れて、フェリーで車を渡している場所だってあります。吉野川は194kmですが、徳島県の区間だけでも30以上の橋があるのは、ご周知の通り？決して自然保護のために橋をつくらないのではなく、「単に人が少ない」（地元住民）「建設費よりフェリーの運航費の方が安い」（フェリーの乗組員）というのが、実情のようですが、その違いは十分に異国を感じさせてくれます。

一方で、長い自然保護の歴史を匂わせるのは、ユーコン準州ホワイトホースにあるダムに設置された魚道です。このダムは1958年に建設されましたが、サケの遡上を助けるため、建設直後に魚道が設置されました。全長は366m世界で最も長い木道の魚道とされます。サケを愛する現地の友人に言わせれば、「付け焼き刃」ですが、今から60年も前にそのような魚道が設置されたことに驚きます。

それもそのはず。ユーコン川においてサケと人との関わりは深いものがあります。北極圏に近いユーコン川では、冬は白夜のようになります。その間は、極寒の荒野で狩りをするしか食料を得る手立てがありません。そのため、ユーコンの先住民は、夏の間サケを獲り、乾燥サーモンを作って冬の食料にしていました。人々の生活がサケとともにあったのです。

カヌーでユーコンを下っていると、先住民が獲ったサケを家族総出で加工する場所“フィッシュキャンプ”に出会います。しかし、高齢化に伴いフィッシュキャンプの数も減っているそうです。今後、ユーコンのサケ文化がどのように変わっていくのかが、気になります。

川をカヌーで旅すると、普段見えなかった視点から自然や人の暮らしが見えてきます。海外だけでなくみなさんの地元の川にも様々な発見があるはずです。私も近く久しぶりに吉野川を下って、カナダの川と比べてみようかと思っています。

新居拓也

筆者のプロフィール：剣山頂上ヒュッテスタッフ。32才。新聞記者を経て現職。
この夏、ユーコン川3200kmの漕破を目指すも1600km地点で敗退。来年以降の完漕を目指す。

～吉野川礼讃 13～

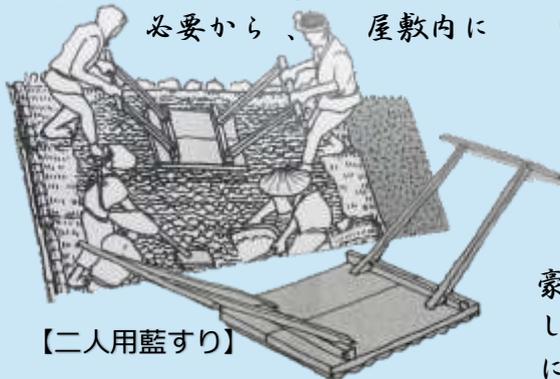
「徳島 25 万石 藍 50 万石」

～今回も吉野川の賜、阿波藍についてもう少し～

藍色は美しい「アオ」である。絣に多用され「飛白」^{かすり}とは、まさに青と白の対比を言うのであろう。「甕のぞき」^{かめ}に始まり、「縹色」^{はなだいろ}「紺色」^{かぢいろ}「褐色」^{かちいろ}と名称を変える美し青は、染^{すくも}から出た「藍の花色」、人の汗の色かもしれぬ。

藍は植物の葉として収穫。葉にする過程で、葉を細かく刻み〈「藍切り」〉筵上に広げての粉碎、攪拌、選別の「藍粉成し」。
そして藍寝床での「寝せこみ」では、絶妙の温度、湿度管理を、水師が差配する。
また発酵し葉となったものを搗き固める工程では、玉師なる者も存在した。
だいたい水師が、玉師を兼ねたという。

藍の複雑な工程と多くの労働力の必要から、屋敷内に



【二人用藍すり】

藍粉成し（藍すり・選別）

出雲の松平治郷^{はるさと ふまいこう}（不昧公）が、茶道を殖産興業の軸に据え、陶芸・漆器・金工・和菓子等を新興したというが、「阿波 25 万石・藍 50 万石」藍一つで、徳島の経済は、支えられていたのだ。

「藍園」「藍畑」「藍場浜」という地名。経済の中心地大坂に「阿波座」があり、海神を祀る「住吉大社」には、藍の積出・輸送に「海上安全たれ」と阿波藍玉^{そび}構中寄進の大灯籠が、聳えている。

絵 徳島県の歴史 出典 河出書房新社より

河野真理



【かりさお】

藍粉成し（庭で作業・かりさお打ち）

藍寝床をもつ豪農は、藍玉取引の豪商となり 吉野川中・下流域に点在した。その一つ石井町の田中家住宅に次いで最近、武知家住宅も国の重要文化財指定となった。



おいしい吉野川

マダコ

5月から楽しんだ吉野川でのキス釣りも7月になると新たな役者が登場で一段落。カコの遡上を追い、また川底にアサリ等の貝が育ちこれを求めマダコが川へ入って来る。タコつぼ、籠、釣り、漁法は性質を反映して多様である。

吉野川のマダコは明石の名産マダコにも負けない！柔らかく美味！女性はもちろん男性にも大人気だ。

吉野川で釣れる時期には1kgほどのものが多く、3~4kgの超大型は外海に居るようだ。ハリに掛かると脚を広げ、とても強い抵抗をするので迫りに富んだ釣り味を楽しむことが出来る。また、最後の抵抗により針外れも多く、取り込みまでのドキドキ、ハラハラも釣りの魅力アップとなる。

ただ、日本有数の暴れ川、大雨で淡水化すると海へ！避難、釣りシーズンの強制終了である。増水期が終われば河口域には大型が再びやってくる。

河口域は魚が遡上、降下を繰り返すととても賑やかだ！

料理も多彩、ゆでタコ、刺身、たこ焼、鍋物、酢の物、タコ飯、イタリアンのアヒージョにも。

冷凍保存にも味を損なうことなく長く食卓を楽しませてくれる。

美味しい吉野川、ごちそうさまでした



さちのちち

イベントの報告とお知らせ

報告		今後の予定			
お月見 9/8		後ろの橋げたも完成近く、来年には広々とした河口が見られなくなるでしょう	吉野川を感じようⅡ	1/31~2/5 とよみ珈琲 2Fにて ☆ 作品を募集しています	世界湿地の日にちなんだ作品展
ウラギク鑑賞会 10/26		汽水にひっそりと咲いています	森は海の恋人 3.11 を乗り越えて	2/2 13:30~16:30 アスティ徳島	●講演会： 畠山重篤さん ●主催： 里山の風景をつくる会他

会員募集中 会費：1口1,000円

- お問い合わせ&お申し込みは事務局まで
- 振込先：ゆうちょ銀行
吉野川ラムサールネットワーク
口座番号 01640-6-52973

吉野川ラムサールネットワーク

- 事務局 藤永知子
- Tel：090-7268-9448
- Email：taikazann@hotmail.com
- HP：<http://www.yoshinogawa-ram.net>
- facebook 吉野川ラムサールネットワーク